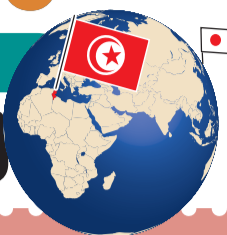


地球ひろば

とも 共につくる ぼくらの未来

協力: JICA (ジャイカ)
https://www.jica.go.jp/hiroba/

チュニジア②



- 国名 チュニジア共和国
- 面積 16万3610平方キロメートル (日本の約5分の2)
- 人口 1140万人 (2016年世界銀行)
- 民族 アラブ人98%
- 言語 アラビア語(公用語)、フランス語
- 宗教 イスラム教スンニ派(わずかにユダヤ教、イスラム教シーア派、キリスト教も信仰されている)
- 時差 8時間(日本が進んでいる)

日本の「5S」「カイゼン」世界に

作業を見直し チーム力を高める

私の仕事は、日本が誇る「5S」や「カイゼン」をチュニジアに広めることです。「5S」は「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」のローマ字の頭文字をとって名付けられたものです。単なる掃除と誤解されることがありますが、5Sは仕事の質を高め、チーム力を高めるための活動です。

「カイゼン」は、作業の見直し活動です。主に製造業の生産現場で行われています。作業効率をよくしようとするとき、上司から指示されるのではなく、現場で働いている人自身が中心となって知恵を出し合い、自分たち自身の力で問題解決をはかっていく点が特徴です。近年、海外では「kaizen」という言葉で広く普及し始めています。

私たち日本人にとって5Sや



チュニジアの企業とどこをカイゼンするか話し合います



工場内の作業の場所を色テープで表示して働きやすい環境にします



改善前 改善後



効率よく仕事をするため文具の置き場所を決めます

カイゼンは学校や家庭で学ぶ普通のことにも思われますが、実は世界に誇れる日本の強みなのです。

いま、チュニジア人のコンサルタント約20人を育成しながら、5S・カイゼンをチュニジアの電気・機械部品などを生産している企業に広める活動をしています。気を付けなければいけないのは、日本のやり方を押し付けるのではなく、チュニジアの人たちに納得してもらいながら、自分自身で5

Sやカイゼンを始めてもらうようにすることです。

革命の混乱から 経済成長へ

チュニジアでは2011年にジャスミン革命と呼ばれる革命が起こり、社会の混乱が続きました。チュニジアはアラブ人が多く住んでいる比較的小さな国です。

チュニジアは他のアラブの国と

現場の担当者と一緒に確認し、す(左から3人目が池田さん)



JICA 品質・生産性向上の専門家 池田克登志さん

長年大手電機メーカーの海外工場、品質・生産性向上の専門家として勤務。工場での作業をやりやすく改善し、働く人の笑顔を見ることにやりがいを感じ、定年退職後はJICAで品質・生産性向上の専門家としてケニア、南アフリカ、エチオピアで活動。チュニジアでは、2009年から13年の約3年半実施された「品質・生産性向上プロジェクト」を担当し、16年1月から同じプロジェクトの第2段階として再びチュニジアで活動しています。

違い石油はほとんど出ません。オリーブやオレンジなどの農産物や繊維製品が主な生産物なので、電気・機械部品など工業化を進め、豊かな国になろうとしています。そのため、5Sやカイゼン活動によってチーム力を高め、皆で知恵を出し合ってよりよい製品を作ることが求められているのです。

はじめよう SDGs

しら 調べてみよう かんが 考えてみよう



Q1 大人はなぜ働いているのだろう。家族をはじめ身近な大人に聞いてみよう。

Q2 身の回りにどんな仕事があるかな? 将来、あなたはどんな仕事をしたいかな?

SDGsは12年後の未来、2030年に向けた取り組みです。その積み重ね

8 働きがいも 経済成長も



人間らしい仕事に

や世界の同世代の友達は、安全で十分な収入を安定して得られる▽性別や出身地、肌の色、障害があることなどで差別されない▽自分の能力にあった仕事に就ける▽そんな仕事に就けているでしょうか。ゴール8が目指すのは、すべての人が一人も残らず「働きがいのある人間らしい」仕事に就き、世界の国々が安定して経済成長できる社会です。

いまだ世界には児童労働や、児童兵士の問題があります。日本では、長時間労働で心や体を壊してしまう過労死のニュースが大きく取り上げられています。ゴール8は働くことの問題解決に向けた取り組みです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

持続可能な開発目標 SDGs

(Sustainable Development Goals)

2015年に国連の場で加盟国が決めた30年までの世界の目標です。

